

令和3年度事業報告

I 概要

令和3年度は、新型コロナウイルス感染の脅威が、我々の身近にまで忍び寄ってきた1年でした。社会経済活動は大きな影響を受け、シルバー人材センター事業においても会員数の減少や、それに起因する契約額の減少など、大きな影響が出ました。

また、現在の八女地域は、全国平均を上回って高齢化が進む一方で、社会を支える現役世代が減少しています。このような社会においては、高齢者が社会を支える一員として活躍し続ける「生涯現役社会」を実現することが求められています。

シルバー人材センターは、各地域の実情に合った就業機会を提供し、高齢者の「居場所」と「出番」をつくり、「生涯現役社会」の実現に向けた役割を果たしています。併せて、高齢者の充実した生きがいと、社会参加の促進を図ることにより、地域社会の活性化と社会保障費の削減など、公共的な役割に寄与しています。

しかし、シルバー人材センターを取り巻く情勢は、定年の延長や継続雇用制度などの影響により、会員の確保は大変厳しい状況となっています。

当センターでは、「会員の自主・自立、共働・共助」の基本理念のもと、公平な就業機会の提供と安全・適正就業を第一として事業の推進を図るとともに、随時シルバー人材センターの説明機会を設け、会員の確保に努めました。

新規入会会員については、会員の方々の口コミ等による1会員1人紹介運動などで、一定数の入会申込みはありましたが、病気や高齢化に伴う退会者が多く、全体の会員数は大きく減少しました。

安全・適正就業委員会では、「安全は全てに優先する」をモットーに安全パトロールを実施するとともに、チェーンソー・草刈機の取扱講習会も例年通り計画しておりました。しかし、令和3年度も新型コロナの影響で、業務部会の接遇講習会等とともに、半数の講習会を中止せざるを得ませんでした。

普及啓発事業の取り組みとして、管内全世帯へシルバー事業案内パンフレットの配付や、FM八女でのPR、奉仕作業の実施、地域のボランティア活動等に参加しました。

今後も、公益社団法人として法令遵守に努めると共に、地域住民の方々に信頼され、期待されるシルバー人材センターとして運営していく所存であります。

以下、令和3年度の主な事業について報告します。